

大鹿村議会だより

第16号 平成28年7月15日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

平成28年6月

大鹿村議会6月定例会

平成二十八年六月大鹿村議会定例会が六月八日から十五日までの八日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告十一件、付議事件十一件、議員発議三件で、すべて原案どおり承認・可決されました。請願は三件で、いずれも採択されました。

報 告

報告第一号 大鹿村税条例等の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

報告第二号 大鹿村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

▼国の税制改正に伴う四月一日施行の条例改正です。

報告第三号 固定資産評価審査委員会条例等の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

報告第四号 大鹿村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

報告第五号 平成二十七年大鹿村一般会計補正予算（第八号）の専決処分の承認を求めるについて

報告第六号 平成二十七年度大鹿村国

民健康保険特別会計補正予算（第四号）の専決処分の承認を求めるについて

報告第七号 平成二十七年大鹿村立診療所特別会計補正予算（第四号）の専決処分の承認を求めるについて

報告第八号 平成二十七年大鹿村営水道特別会計補正予算（第五号）の専決処分の承認を求めるについて

報告第九号 平成二十七年大鹿村介護保険特別会計補正予算（第四号）の専決処分の承認を求めるについて

報告第十号 平成二十七年大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算（第三号）の専決処分の承認を求めるについて

▼精算による最終補正です。

報告第十一号 平成二十七年大鹿村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

付議事件

議案第一号 大鹿村介護保険法に基づく指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二号 大鹿村介護保険法に基づく指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に係る基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼国の法改正に伴う条例改正です。

議案第三号 平成二十八年度大鹿村一般会計補正予算（第一号）について

▼現在工事中の介護施設に入れる特殊浴槽など備品購入費、林道中峰黒川線の復旧工事などです。

議案第四号 平成二十八年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算（第一号）について

議案第五号 平成二十八年度大鹿村立診療所特別会計補正予算（第一号）について

議案第六号 平成二十八年度大鹿村営水道特別会計補正予算（第一号）について

議案第七号 平成二十八年度大鹿村介

護保険特別会計補正予算（第一号）について

議案第八号 森林総合研究所分収造林地の契約期間変更について

▼長伐期・非皆伐施業に転換するものです。二年前に否決された案件ですが、今回は全会一致で可決されました。

議案第九号 下伊那郡町村公平委員会組合規約の変更について

議案第十号 建設工事請負契約の締結について

▼文満団地の建設工事です。

議案第十一号 教育委員会委員の任命につき同意を求めるについて

▼平瀬定雄さんが任命されました。

請 願

一、子ども・障がい者等の医療費窓口無料化を求める長野県への意見書の提出を求める請願

二、「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める意見書提出に関する請願書

三、複式学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める意見書提出に関する請願書

▼いずれも全会一致で採択され、意見書を提出することになりました。

議員発議

発議第一号 子ども・障がい者等の医療費窓口無料化を求める意見書の提出について

発議第二号 「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める意見書の提出について

発議第三号 複式学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める意見書の提出について

一般質問

○秋山光夫議員



*三市村による一五二号線整備要望書について

質問 国道一五二号線が通年通行できるようにになると、人口増加、雇用の促進、防災その他、経済の発展、地域振興は飛躍的に向上する。六市町村により早期改良整備を関係機関に要望していると思うが、大鹿村は自治体として規模が小さく、要望も弱くなるのではないかと懸念される。同じ窮状を持つ三市村による要望書が提出できれば進

展が期待できるのではないか。

村長 昨年、全員協議会で三市村による要望活動を始めたいというお話をした。その後、大鹿村と二市、県の機関と打ち合わせを進めているところだ。結果として、現在六市町村で要望活動をしている中であり、その中を分けるような形で三市村での活動を大きくするということとは、みんなに相談した方がいいのではないかとのことだ。六市町村での要望活動の総会が来月下旬に開かれる。それより前に担当課長同士の打ち合わせがあるので、その中で私たちの動きをどうしていくかを提案するつもりだ。

仲間として一緒に行動を取っていくには、それなりの決まりは守り、理解をいただきながら、さらに六市町村での大きな行動の中に大鹿の部分の改良等について、しっかり協力していただいて、大きな活動につなげていこうという考えになっている。

質問 六町村の中で大鹿村の自治体としての規模が非常に小さい。その点で、他町村よりも要望が弱くなるのではないかと懸念を持っている。

村長 確かに人口規模は一番小さいが要望事項として提出していることについては、すべて同じ扱いをしていたにしている。一五二号線長野県分におい

て改良が非常に遅れているのは大鹿村の前後だ。そのことは理解していただいていると思う。決して弱くなっているとは思っていない。

*大鹿村における防災体制の再検討について

質問 日本各地で大規模な地震が続発している昨今だが、現在、大鹿村では総務課、産業建設課等より「大鹿村ハザードマップ」「災害時の心がけ」「大規模災害に備える」等々の印刷物を各戸に配布し、自主防災を呼びかけ、村長も自助、共助を強調している。そのほか定期的に防災訓練も行っているが、どうせ地震は起こらないという意識で形式的な防災訓練になっているのではないか。

実際に村民の方々に聞いたところ、「ハザードマップは見たことがある。どこにあるよ」と笑っていた。また「私のいるところはハザードマップを見たら真っ白なところだから、当面危なくないよ」というような話も聞いた。ハザードマップに載っている指定避難所のうち、2交流センター、3鹿塩地区館は土砂災害警戒区域内にあり「避難時には村の指示に従って下さい」と記されているが、それすらも見ていない方々が非常に多い現状だ。

地域防災計画は自治体の災害対策の基本と言われ、地域のことに精通した専門家の存在は住民にとっても行政にとってもどれほど心強かったかと、鳥取地震を経験している片山元鳥取県知事も述べている。村の中央構造線博物館の協力を求め、防災体制の再検討が必要と考える。

村長 大鹿村地域防災計画書というものがある。平成八年頃から飯伊地区を一つのくくりとして研究・検討し、平成十一年度に策定されている。これは作っただけではなくて、その後、大規模な災害等が発生した折、常に専門家の意見等を入れて見直しがされ、実情に合うように改訂されてきている。この防災計画書は概ね三〇〇ページに及ぶ膨大な冊子で、この中でご指摘があれば、具体的に教えていただければ、今後また対応等しつかり研究していく必要があると思っている。役場の中では毎年職員の防災初動マニュアルについて見直し作成をして周知している。初動については怠りなくいけるよう対応は取っているつもりだ。

質問 一番危惧を感じたのは、村民の皆さんにマップや「災害時の心がけ」などを出しているが、出したきりで、頭の中にしつかりと植え込むような啓蒙の仕方を村がしていないことを強く

感じた。そういう書類関係を見てください、気をつけてくださいだけでなく、繰り返し、いつ起こるか分からない大災害に対して、心の準備、防災グッズの用意など、しつかりと啓蒙していく必要が問われていると思う。

村長 確かに配ったきりだと言われれば、そのとおりかもしれないが、配布されたものを活用するのは、やはりそれぞれの人ではないか。そういうことのないように一年に一回きりだが防災訓練等をお願いしている。今年度はそういうものの説明も加えながら訓練していただけるよう指導することになっていくかと思う。

* 防災倉庫備品の再検討

質問 先日、北入一の集会所の横にある防災倉庫の備品を確認した。



自治会防災倉庫の中

備品リストに細かく書かれているが、驚いたのは飲料水、非常食の備蓄が全くゼロということだ。エコの容器、おわん、フードパック、大皿、割り箸、フォーク、スプーン、炊事用ラップ等々、炊事用のものがたくさんあるが、これは何を調理してどう使うのか。

防水シートは一・八×二・七、二・七×三・六が各二枚ずつ四枚しか入っていない。さらに携行缶がきれいな段ボールに包装されて二つ入っていたが、中は空だ。災害のときにガソリンを買ってきて燃料を混合するのか。非常用ろうそくが九本と記録されているが、九本ではあまりにも少ない。さらに救急医療品が入っていない。甘く考えているのではないか。

村長 大鹿村の防災倉庫は現在一九か所あり、大きく二つに区分されている。ガソリンも共通だが、食料や飲料水についてはデイサービスセンター他四か所、合わせて五か所に備えてある。一部、保存が可能な場所については集会所等を利用して備蓄をしているのが実情だ。その他は主に非常用の物品を置くことを基本にしてある。小さな物置では温度等の管理が非常に難しい。あそこに食料やガソリンを入れておくことが可能であるかを考えると、無理ではないかと思う。

非常の場合に間に合わないということだが、大鹿ではそれぞれの家に結構いろいろな機材等があると思う。初期は共助の中で対応していただくという考え方が基になっている。食料についても、三六災の経験等の中から、ある程度の食料は各戸保存しているという基本的な考えがあるので、食料、水等は何か所かの安全に置いておける場所に備蓄している。

いろいろな物が足りないというご意見だが、ある物をうまく使うことも大事なことでないか。個々のお話があったが、逐次検討する中で補足するなり撤去するなり対応していく。

○ 齋藤栄子議員



* 村内の環境美化作業について

質問 村内の環境美化作業が高齢化、人口減少により困難になってきているため、何らかの策を村に求めているが、いっこうに対策が取られていない現実を村長はどのようにお考えか。

村長 村内の景観、環境の整備について、本当に多くの皆様にご協力いただいている。改めて感謝とお礼を申し上げ



げる。いろいろな考え方があろうかと思うが、基本的には村民参加により美化運動をすることは、薄れがちな人と人との間のコミュニケーション作りや防災等有事の際の連帯感をつくり上げ、さらに美しい村づくり、安全な村づくりへということで考えている。実際、大変であるという意見は先の懇談会でも何回かいただいた。特に河川清掃については来年度に向けて検討していかなければならないと考えている。

住民税務課長 環境美化運動として、村の事業として八月の草刈り作業、十月のごみ拾いを行っている。この作業は大鹿村日本で最も美しい村づくり推進本部会議や大鹿村環境委員会にて承認されて、四月の自治会長会で説明、さらに八月に計画している自治会環境

係で依頼する予定だ。

高齢化や人口減少により作業が困難になっているという点だが、八月の草刈り作業においては地域の実情により無理をせず、できる範囲での作業ということをお願いしている。十月のごみ拾いにおいては、一昨年まで環境委員、議会の皆様と役場職員等は各自治会の作業と別に国県道での活動を行っていた。人が少ないというご意見の中で、昨年よりそれぞれ自治会で作業を行うように変更してきている。

環境美化活動については大変な作業だ。地域の方が参加していただき、みんなできれいにしていただくことが大切かと思うので、今後ともご理解、ご協力をお願いしたい。

質問 昨年九月の一般質問で、草刈り作業に専門業者を入れる考えをお聞きしたが、危険なところはしないように、危険なところが残っていたら、交通安全協会なり環境美化の方で相談させていただければと思っているとの村長の見解だった。住民懇談会の席上、河川敷の美化作業が大変危険だとの意見も出ていた。今まで大きなけが人が出ていないのが不思議なくらいだ。人もだんだん少なくなり高齢化もあり、専門業者のみに頼るとは思っていないが、

住民とともに作業してくださる専門業者を早急にお考えいただきたい。

村長 専門業者ということで今やっていただいている皆さんもボランティアなので、ボランティアばかりお願いしているのが果たしていいことかということも考え合わせながら、来年度に向けて研究していく。

***村内の商業活性化について**

質問 三月議会の中で、村民が村内商店で一部の買い物をとの提案が東村議員からあった。二か月たったが、村内商店は全く変化がなかったとのことだ。そんな状態の中、村は共同店舗をお考えのようだが、共同店舗をつくったら村民が村の商店を使うようになるという秘策をお持ちなのか。

村長 私として即効の秘策は、正直言って、ない。共同店舗ということで集まっていただければ、ワンストップ的に村の人も使いやすくなり、人が集まればコミュニケーションが取れ、販売も見込めるのではないかと考えは持っている。そう考えて、過去何年も提案が続いているわけだ。今般、リニア工事による需要の増があると見込んだ場合は、また道の駅構想もあるので、そんな取り組みも一つの機会と考えている。

質問 今の状態で共同店舗をしたとしても、問屋は同じだ。価格が大幅に変わると思えない。品揃えにしても、村民の方が要望するような大型店の品揃えは到底不可能だ。そう考えると、店舗を村でつくっていただいても不安が多すぎる。今、大鹿村の商店は地域のコミュニケーションの場所ともなっている。小さな店が村のあちこちにあることが、大鹿村の、日本の原風景になるのではないか。これからどうお客様を増やしていくか、自助努力が私たち商業者の大きな課題だ。共同店舗にこだわらず、商業活性化と一緒に考えていただければと思う。

村長 いずれにしても、話し合いが始まったところなので、今後お互いに向い方向を探っていきたい。

○河本明代議員



***リニア工事への住民理解の判断について**

質問 先般四月二十七日に開催された道路改良等の住民説明会の中で、JR東海の澤田担当部長は、住民の理解が得られたかどうかは、事業者が責任を

持つて判断していくという言い方をされていたが、これはおかしいのではない。村長は以前から、説明に対して納得がいけない点は要望し、回答をもらうということを繰り返し、どこかの時点で一定の判断をすることになるという言い方をされてきたが、その最終的な判断をする主体は、あくまでも事業者ではなく村だと思う。村長がこの点をどう考えておられるか、改めて確認させていただきたい。

村長 村、私の方から先に、住民の理解が得られましたと発言することは、多分ないと思っている。

質問 事業者が住民の理解が得られたいと言ってきた時点で村は判断するのか。工事説明会の開催に同意することをもって、村としてリニアの工事の着工を認めた形になるのか、その判断はどういう形でなされるのか。

また、現時点で示されている道路改良計画や送電線計画などについて、これまでの村や対策委員会の要望が反映されているとは言えない部分も多々あるかと思うが、村長ご自身はこの計画で理解・合意できるとお考えか。

村長 南アルプストンネルの本体工事と道路工事とを分けて考える必要がある。工事説明会が理解と同意を得られ

た後かという点、私は違うと思っている。

本体の工事説明会より前に、県道松川インター大鹿線の工事説明会はかなり近い段階ですることになると思っている。その中でも、通行止めに関することなどは事業者が考えていること、発注者が考えていることとの差があった場合には詰めなければいけない。また工事説明会から出た、環境影響評価で出てこなかった項目について話し合うことになっていくので、それは工事説明会後でないとできない。工事説明会は、理解と同意がなくてもしなければならぬ。時間が来ると判断している。

道路改良については、国道一五二号青木方面、赤石岳公園線については具体的提案はまだなされていないが、松川インター大鹿線については今月半ばには施工業者が決まるという話なので、決まって計画が固まった時点で工事説明会になると思っている。

送電計画については、今後、中電が環境影響調査することになっているので、その結果を待つ必要があるかと思っている。しかしながら、住民懇談会においても送電線計画について意見は少なかつたと解釈する中で、一定の方向は見えてきたのかなと考えている。

***リニア・災害など非常時の対応について**

質問 昨年十一月に小渋川流域の大規模土砂災害を想定した合同防災訓練が行われた。そこでは上蔵で大規模崩壊が発生し行方不明者が出たり、河道閉塞により天然ダムが発生して下流に避難指示を出すことを検討するような災害も想定されていた。これはまさにリニア工事の非常口や変電施設が計画されている場所だ。JR東海ではそのような災害を想定しているかお聞きしたところ、「大規模災害を想定したシミュレーションは実施していないが、造成・建設にあたり十分留意する」とのことだった。

ただ、工事に当たり留意するだけではなく、工事中およびリニア供用後についても、大地震や大規模土砂災害、事故など緊急時を想定した具体的な対応方策を事前にきちんと検討して文書化し、双方で確認しておく必要があるかと思う。村の診療所はもちろん、消防も到底対応は不可能だ。緊急時を想定して、JRにどのような対応方策を求めているのか。

村長 工事中と供用後では考え方、対策について差があると考えているが、村の医療や消防の力量では大きなものについては対応できないと思っている。

対応できるとしても、ごく小規模のものとか、真の初期対応ぐらいは、やはり地元として責任を持たなければいけないことかなと思っている。

供用後については現段階では何とも言えないが、工事中については、現状、村の中でいろいろな工事が行われる。各業者は工事を施工する際には緊急時の体制系統として、労基署、地元官庁、消防、警察、医療などの関係へきちんと連絡する体制が取れているという書類が出てくる。現在も大きな工事になれば、すべて出てきているので、それによって対応していただくことになってくる。いずれにしても、村からJRなり業者に申し上げるのは、大鹿村の現状はこうですと、それ以上のことはできません、以後はきちんと対策を考えてくださいと伝えるのが私の仕事かと思っている。

質問 従来の工事と規模が全然違うので、しっかりとした実効性のあるものになっているかという確認ができればと思う。小渋線が通れない場合などにやはりヘリコプターの活用が考えられるので、そういう体制も求めているのか、いかがかと思う。

村長 大きな災害になればヘリ対応は当然出てくると思っている。幸いヘリポートは二か所用意してあるし、当然、

現場の近くにも造っていく必要があるのではないかとこの意見は申し上げていきたい。

○東村邦子議員



***リニア工事期間中の緊急車両の通行について**

質問

四月末に行われた議会報告会で緊急車両の安全確保の要望が住民よりあったので、改めて質問したい。松川インター大鹿線の渡場から西下トンネルの八キ口間でJR東海が示した拡幅箇所五か所に対して、大鹿村からさらに狭隘危険箇所の改良として一〇か所の要望が出されていたが、四月二十七日に行われたJR東海からの最終回答は村からの要望箇所一か所、渡場の歩道整備等を含む箇所と、もともJR東海が示していた大林建材のカーブの拡幅箇所などが増えただけで、ほぼ原案に近い内容が示されて終わった。小洪線二車線化の悲願は立ち消えたのか、住民には不安がよぎったようだ。

特にトンネル工事、道路改良工事中の小洪線の往来で、拡幅工事に手が付けられない八キ口のうちの七キ口、大

型ダンプと緊急車両のすれ違いが難しい箇所がないのか。また村の拡幅要望箇所が残り九か所あるが、一般車両は一時停止が義務づけられているが、当然、工事車両が今より増えるわけで、すれ違いに時間を要する可能性のある箇所は把握されているか。

村長

昨年六月の一般質問については、心配されている気持ちはよく理解できるが、緊急自動車については道路交通法上「緊急自動車の優先」という項目があり、一般の車は譲って優先的に通らせなければならぬというルールがあるという答弁をさせていただいた。サイレンが聞こえたら譲る、止まる。それで、大きな交差点で赤信号でも、緊急自動車を通るということで通っていく。確かに大型のダンプも通るが、大型ダンプも一般車両なので、譲る義務がある。緊急自動車を邪魔することはできないということは、JR東海の説明会のときにもそういう質問があつて、回答としては、私が今言ったようなことしか言っていなかったと思う。

質問 村民が心配する点は、小洪線を往来するのは住民や村の治山関連の工事車両や砂利組合のダンプ等、道に慣れたドライバーだけではないと思う。大鹿には大勢の観光客が訪れ、そういう方々がカーブの途中や工事中の道路

において片側停車をする際に、運転の判断が確にできなくて、パニックに陥る危険性が大いにある、その部分も心配している。

先日、大鹿の百年先を育む会が観光協会の協力を得て、観光客に対して小洪線の道路状況のアンケートを実施して、その結果を見せていただいた。この集計結果のうち、初めて来村された方々がすれ違いの部分を答えているところをピックアップしてみた。その中には「工事車両より一般松本ナンバーの車両が端に寄らず怖かった。工事車両はむしろ安心できた」と答えている方がいる。また「道幅が狭いところもあり、かつブラインドコーナーが多いため、大型車両との対面通行には危険が伴いやすいと感じた。事故、トラブルが起きる率が高いと思う。生活している人、旅行者にとっては、優しくない道、難しい道という印象だ」と答えている方もいる。

特に信号機で片側通行になる箇所では、緊急車両の優先走行は決められているが、坂道や急カーブで、しかも工事中の道路状況でエンストなども考えられるわけで、緊急車両接近の信号切り替え、改良工事が複数行われるとしたら、その箇所に連動して改めて警告する機材導入は考えられないか。

災害が起きるたびに想定外の説明を耳にするが、最低限の予測はしておくべきではないか。信号機の前後の待機スペースは十分なのか、緊急時には誘導員の速やかな配置は検討されているのか、ぜひ要望していただきたい。

村長

アンケートの内容は私も見せていただき、承知はしている。しかしながら、緊急自動車に関するところで言えば、やはりルールはルール、運転免許を持っている人はきちんと守ると思う。緊急自動車が来るから、誘導員を即投入しろと言っても、これはできない。現場に人がいれば、救急車の音がすれば当然判断はしてくれると思っ

質問

災害なり土砂災害なり、特別な非常時においての誘導員の配置も、対応はどうなっているのかということを通じて確認していただきたい。

○北島千良穂議員



*ケーブルテレビ光化について

質問

前回の全員協議会の折、村でもケーブルテレビの光化を考えていきたいと村長がおっしゃっていたが、それを聞いて、飯田ケーブルテレビに取材に行ってきた。

飯田ケーブルテレビではN-TTの回線を利用して、光キャストビジョンというテレビ、ネット、電話も一本の光ケーブルで行うというもので、将来は飯田・下伊那を網羅していきたいということだった。N-TTと協定を結んでいるので、N-TTの光回線を使用する、幹線工事はなしという夢のような話だが、それでも住宅への引き込み工事、光変換器、宅内工事費はかかると思う。そういう費用をどうするのか。飯田ケーブルテレビは多チャンネルで利用料金の問題が起きると思う。村のケーブルテレビの利用料金は一か月七〇〇円という村民にとってはお得な金額だったが、今後どうなるのか。飯田ケーブルテレビがキー局であるコミュニティ番組をどうするかが問題だ。

うまく行けばなかなかいい話だと思うが、問題もあると思う。まだ本当の計画があるわけではないので、疑問ではあるが、光ケーブル化について村長はどのようにお考えか。

村長 非常に細かく具体的に調査されて情報をいただけたことをありがたく

思う。

まず現状をお話すると、村のケーブルテレビの光化について、現在また将来を見ると、情報の高速化は非常に大切なことで、取り組んでいく必要があると認識している。ただ、現在の施設、設備の状態や運営管理の方法を見ていく中で、今後の方式としてどんなものがあるのかを研究する必要があるということ、今年度その研究を進めるつもりだった。

全員協議会で話をさせていただいたのは、今年度広域連合の中で取り組む調査研究プロジェクトの中に、IT環境のあり方について市町村、関係機関、団体によりIT環境の整備状況を調査し、今後の整備方向を検討するプロジェクトがあった。これがどういう形になっているのか、まだ具体的にはあまり見えていないが、現在の状況を調査して、飯田ケーブルテレビの流れの中に組み込める方向かと聞いている。大鹿村もその該当の中に含めてもらえそうなのか、また大鹿村の現況を第三者から見るときにどんなものであるかという情報をお願いしたい。この広域連合のプロジェクトに手を挙げたという話をさせていただいた。

この調査の結果や民間等、現在一生懸命情報を集めているところだ。細部

については今後の参考にさせていただき、安くていいものが長期に使えれば一番いいので、ベストな方向を探っていきたい。

***リニア工事と日本で最も美しい村について**

質問 リニア工事により騒音、環境、大気汚染、景観、その他もろもろが今より悪化することは事実だ。日本で最も美しい村のグループから除外されるのではないかと心配する。

四月二十七日にJRより村に関する道路について、環境、地下水、工所用車両、現場事務所、宿舎、もろもろの説明があったが、どれも満足できる説明はされなかった。

また、送電線については景観に配慮して鉄塔の色を変える、見えにくい所を通す、または鉄塔を低くするなどの説明はあったが、鉄塔や送電線は季節によつては色を変えても楽々見えてしまうので、景観に配慮とは考えにくい。中電は地中化についてはほとんど本気に考えていないと思う。日本で最も美しい村というのは景観の良いところを見てもらう観光ではないか。最も心配することは送電線だ。送電線について、村はもう仕方ないと考えているのか。地中化をもっと強固に進めるか、もっ

といい方法はないものか。

村長

大鹿村の美しい村選定の地域資源がある。これは南アルプスの景色、文化財として重要文化財二件、さらに大鹿歌舞伎だ。この三つともリニア工事でなくなったり、大幅な変更にはならないと思っているので、美しい村を除外されることはないと思っている。

リニア工事の送電線については、いろいろ研究する中で、環境等配慮したルートを現在考えているということだ。今後、環境調査を行うということなので、その結果を見たいと思っている。しかしながら、大鹿村では既に長野県企業局の送電鉄塔があの形で敷設されている。今回の計画を、全くないのだからやめてくださいという表現ができないことが一つの弱みではないかと思っている。経過の中で、いろいろなことをこちらからも提案したが、現在の架空が提案されている。

逆に、もし美しい村が送電線等にこだわることになれば、送電線が全くない日本で最も美しい村を探す方が大変ではないかともふと思った。

質問 鉄塔や変電所を含めて、大鹿村には景観条例があるので景観条例に当然かけると思う。かけて結果が駄目だということはないかもしれないが、景観条例は県の条例に基づいてという意

味合いもあるが、その点はいかがか。

村長 大鹿村美しい村づくり条例は景観法には基づいていないので、あくまで任意、協力を求めているという条例だ。だが、作った時点ではリニア工事の話があったので、届け出ただけだが、仮設のものについても対象にするとか、そういうものをきちんと課した条例だと思っている。当然のことながら、該当する規模のものについては届け出をきちんと出してもらう。

○小澤 正議員



*移住定住促進について

質問 村も中年層の人たちに多く定住していただいているが、特に必要とする若い人たちが少ない。若者定住については村としてもそれなりに工夫して手厚い対策をしているが、若い人たちの中にしっかりと浸透しないから成果が上がらない状態ではないか。今は情報発信の時代なので、PRの仕方を見直すことが大事だ。定住問題については専門の窓口をつくって対応すれば、ばらばらにならずに、しっかりとした宣伝ができると思う。

村長 まず村の存在を知っていたために、観光行政はじめ大鹿村のPRに国内あちらこちらに出向いている。

また、プチ移住ツアーを計画したり、ホームページでのお知らせなど、いろいろな取り組みをして、大鹿村にまず一回は来ていただけるようなことをしているつもりだ。

ホームページでも空き家の紹介や関連の補助情報等を多く入れてお知らせしている。また今年度からは、若い人たちが仕事がないのが一番困るので、村外の職場紹介にも取り組んでいくように始めたところだ。三月に作った総合戦略の中でも、二十代、三十代の夫婦各一組の移住を基本としているので、そういうものに取り組んでいきたいと考えている。

専門の窓口ということだが、今は総務課が窓口になつて相談を受けている。ただ、実際に定住しようというときには、医療から住宅、水道、いろいろな質問が出てくる。大鹿村の役場はすべて役場の建物の中で処理できているので、専門窓口というよりも、役場に来ていただければ、かなりの相談はできると思っている。

大鹿村では昨年の十月一日から今年の四月一日までに人口の減少が一〇人、おおむね一％ということで、減少率と

しては非常に少ない方だった。また、高齢化率も五〇％を割って、四九・九％となった。若い方が増えてきているのではないかと思っている。

質問 若者定住施策の一つにUターン問題もある。小浜線の改良により松川近辺への通勤時間が短縮され、大鹿近郊に住む大鹿村の若者に、生活拠点を移してもらえような施策を講じていただきたい。

村長 当然そのことは視野に入れて、今まで松川インター大鹿線の改良については話をしてきたつもりだ。リニアの工事は一〇年続くが、松川インター大鹿線の工事はおおむね三年で済む。先にもいいことをしっかりといただこうというのも一つの方法かと考えている。

*逆単身型農山村留学について

質問 住宅等の整備が進んで、留学家庭の受け入れ体制が整いつつあるかと思うが、今後のスケジュールや募集方法、規則の整備などお伺いしたい。

教育長 年々児童生徒が減少しているため、児童生徒の増加対策として、平成二十六年に山村留学検討委員会農山村留学のあり方について研究した。阿智村の浪合や売木村で行っている従来型の、指導員を配置して子どもだけを受け入れる農山村留学ではなくて、

家族ごと受け入れる家族留学方式、逆単身赴任、お母さんと子どもが来るようなことを想定している。

平成二十七年、二十八年には農山村留学推進委員会を設置して、具体的な受け入れ体制について研究している。住宅については塩原の大鹿中学校手前の旧教員住宅二戸を農山村留学用住宅として現在改修しており、六月二十日工期で完成するので、六月下旬より農山村留學生の募集を開始できるように準備を進めている。

募集方法については、ホームページに載せるのが効果的だということなので、村のホームページに農山村留學生の募集を載せるようにしたい。

今後のスケジュールだが、応募者があつた場合は八月下旬に体験留学実施を計画している。実際に小学校または中学校で授業を体験し、山村留学用の住宅も案内する。その後、児童生徒、保護者と推進委員会の委員が面談して、受け入れるかどうかを決定していく。

規則の整備については、大鹿村学校教職員住宅管理規則にある塩原の教員住宅を外す一部改正を行い、新たに大鹿村農山村留学用住宅設置及び管理規定を制定したので、それに基づいて進めていく。